

## JBL4350A の再構成(5) —スーパーツイーターの再構成—

### 1. はじめに

スピーカーアキュライザーの導入を見据えて、サブシステムの入替えを行い、サブシステムの再構成(11)で報告いたしました。この機会をとらえて、JBL4350A のスーパーツイーターの設置個所や接続変更を行うことにしました。

### 2. JBL4350A の再構成と試聴方法

JBL4350A の現状の構成について整理しておきますと、駆動アンプは JBL4350A の再構成(4)で報告したとおりであり、仮想アースの検討(12)では、ミッドバスからツイーターの端子のムジカライザーにバナナプラグを利用してコンデンサーを追加し、仮想アースの検討(13)では、スーパーツイーターの PTR7 に加えて TAKE T の BAT ONE を平行にプラスし、BAT ONE のマイナス端子に銅板を繋ぎ、これに電磁波吸収テープ NRF-005T を貼って仮想アースとして使用することを試みました。

今回、サブシステムの再構成(11)の設置方法の変更結果に伴い、スーパーツイーターの PTR7 と TAKE T の BAT ONE を AXIOM 80 の上に移動させ、余ってきたムジカライザー ML-6 経由で PIONEER PTR7 と TAKE T の BAT ONE に接続します。スーパーツイーターの配線は、バナナプラグ経由でムジカライザーに接続し、ムジカライザーからはバナナプラグ経由で PTR7 と TAKE T の BAT ONE に接続します。なお、ムジカライザーのマイナス側の入力のバナナプラグには、10000 $\mu$ F の電解コンデンサーを接続するとともにバナナプラグに電磁波吸収テープ NRF-005T を巻きます。

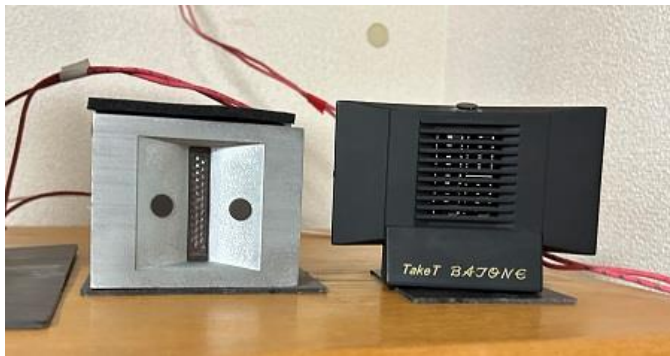
PIONEER PTR7 と TAKE T の BAT ONE およびスーパーツイーター用ムジカライザーの設置状況は下掲の写真のとおりです。



全景



スーパーツイーター用  
ムジカライザー(上段)



**PIONEER PTR-7      TAKE T BAT1**

音源は前報(4)で試聴した次の音源です。

**Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929**

**J.S.Bach Sonatas & Partitas**

**Nathan Milstein**

**ドイツグラモフォン MG9551**

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

**LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)**

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

**Angel (東芝 EMI) AA 9117・C**

ゲオルグ・フドリッヒ・ヘンデル

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

さらに、JBL4350A で聴いていなかった STAGE+の下記を聴いてみることにしました。

シューベルト ピアノ 5 重奏曲「鱒」  
リサ・パテイアシュビリ(ヴァイオリン)他  
ベートーヴェン 後期ピアノソナタ  
マウリチオ・ポリーニ(ピアノ)

### 3. JBL4350A の試聴結果

バッハの無伴奏ソナタとパルティータは、もっとも JBL の苦手とする曲ですが、意外に粗さが取れて滑らかな音がします。

ベートーヴェンの選帝侯のソナタは、これまでも打鍵と余韻のバランスの取れた音でしたが、その再確認がとれました。

ワーグナーのワルキューレは、音がより緻密になり、ソプラノやメゾソプラノの声も張りがあります。

ヘンデルのメサイアは、合唱がよく分離するようになり、ソリストの歌唱と合唱とオーケストラのバランスも良いようです。

シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」は予想外にパテイアシュビリのヴァイオリンも滑らかで、コントラバスの音は明瞭で量感に富みメロディラインの音階が追えます。ベートーヴェンの後期ピアノソナタは、ポリーニの弾く Fabbrini の量感ある迫力が味わえます。

以上、STAGE+のデジタル音源も粗さが目立たず、スーパーツイーターに電解コンデンサー付きのムジカライザーを接続する効果は一応あったものと言えます。

### 4. まとめ

PT-R7 と TAKE T の BAT ONE の設置個所の変更とムジカライザー経由とする接続方法の変更を行いました。これで、全体域のユニットに電解コンデンサー付きムジカライザー経由の接続が完了しました。

以上